

特集: お茶を楽しもう!

- 生産者の声
- ペットボトル飲料のひみつ
- 飲み方いろいろ♪お茶の魅力



- 農業を選んだよ
- 理事の皆さんおつかれさまでした!
- 青年部活動報告
- 有機農業推進ネットワーク告知
- 食クエスト「野の花」「キッチン太郎」

田んぼの蓮華草に今年もミツバチがやって来た。 Photo by 安藤光一

身土不二

「熊有研」理事長の就任にあたって 内田 敬介

今回、新しく理事長に選出されましたが、就任にあたりひとこと初心を述べたいと思います。

「熊有研」は一九七四年に発足しましたが、当時、御船町の奥田美和子さんは詩「村よ、よみがえれ」で、農村の状況や農民の心境を詠っています。高度経済成長政策や農業近代化政策(農薬・化学肥料多投など)のもとで、村の崩壊、環境破壊、農民も都市生活者も、ともに体も、心も病んでいたことが伝わってきます。こんな中で、農民、都市生活者、医師、また農協、生協などが、農業とくらしのあり方、医療や社会のあり方を問いかけて、「熊有研」が産声をあげました。

当時の有機農業をめぐる困難な状況の中で、先人たちは未来を信じて切り拓いてきました。「熊有研」はまさに民間(民衆)が連帯して作り上げてきた「世直し」運動であつたといえます。

しかし、現在、有機農業の生産者と消費者のくらしは多くの問題を抱えています。また、「熊有研」は社会的役割をどう果たしていくか問われています。私は「熊有研」の課題として次の3点を考えます。

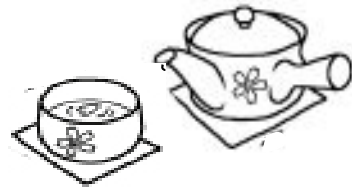
一つは、会員が多様化する中で、再度、運動の目的を確認しあい、組織・事業・経営を有機的に考える必要があります。

二つには、新たな研究課題として生産者・消費者のくらしの安定を図る研究、新規就農者育成・確保の研究、流通・加工分野の研究、社会的役割の研究です。

三つには組織力を高めるために組織体制・運営の強化です。会員間の連帯・協同(若者・女性の意見の尊重、さらに他のNPOや協同組合(JA・生協・漁協など)との連帯がとても大切であり、開かれた組織にする必要があります。そのためには、会員は相互に、人間尊重の立場で、話し合う必要があると考えます。

現代社会は、農業の再構築、食の安全、環境問題など、多くの課題を抱えています。今こそ、「熊有研」の果たす役割が社会的に大切になっており、まさに、出番です。自信と誇りをもって「土といのちとくらしを協同で守る」運動に、皆さんとともに取り組みたいと思います。どうぞ、よろしくお願いします。

有機茶は独自販売が主 課題は



08年11月9日の有機認証講習会の後、市来前理事長（日本茶アドバイザー※注）、橋本審査員を進行役として、お茶事業者の交流会がもたれた。約60名が参加。お茶は、生産から加工まで、有機JAS認定に必要な生産行程管理記録（日誌のようなもの）に記録しなければならぬ。生産者の負担も大きい。その記録の方法の情報の交換や、高品質のお茶を生産するための技術を共有したいという生産者からの希望もあり、交流会が開催された。

交流会に期待する声

藤本製茶

藤本邦夫

自力でやるしかない

消費者は安心、安全なお茶を望んでいます。それが「有機」に結びついていないのが現状だと思っています。国が有機JAS法をつくったのですから、行政はもっと有機のことを消費者に伝えるべきです。でもそれができない現状では、それだけが努力して伝えていかなければなりません。

産地ブランドと有機

現在のお茶の流通は産地ブランドで売れる方法が主で、消費者も八女茶とか静岡茶とか産地名で選んでいます。産地ブランドではない、有機茶の表示だけでは、消費者は選んでくれないようです。また農薬を使わないお茶を店頭に置けば、農薬を使っている他のお茶を否定しているようにとられてしまいませんか。お茶は、独自ルートでの販売

売が多いのです。

消費者のニーズは苦味の少ないかぶせ茶系

それと、今お茶で主流なのが、「かぶせ茶」と言われるものです。これは、お茶に日が当たらないように覆いをかけます。この季節、お茶の産地に行けば、黒い日よけでお茶畑全面を覆っている。光景を見る事ができます。玉露の作り方と似ています。日を当てなければ、アミノ酸の旨味がまし、カフェインとかタンニンなどの苦みは薄くなります。色も緑が強くなくなります。これが今の消費者の好みです。有機茶は、陽にあててつくる人が多いので、そういう意味では市場ニーズと違うのかもしれません。そういう有機茶の抱える課題も含めて、有機茶が消費者に届くように、今後も情報交換をしたいですね。

※注 NPO法人日本茶インストラクター協会は、歴史ある日本茶文化の継承と新たな茶文化を創造し、より広く社会の健康と文化及び教育の向上に寄与することを目的に設立されたNPOです。インストラクターやアドバイザーの認定試験も行っています。

電話インタビュー

有機茶の原点、それは家内の入院です

なぜ農薬を使わない有機茶をつくりをはじめたのか、その原点を、お父さん・藤本英世さんにお聞きしました。お茶作り55年、無農薬茶に切り替えて29年。農薬を使わないでお茶はできっこないといわれながら、有機茶を作り続けられています。

家内が肝臓をやられて7ヶ月入院した時、原因は農薬ではないかと思った。それで、これ以上農薬は使いたくないと切り替えたが、6年目で経営が苦しくなると、後悔した。ダニなど害虫が発生し、茶葉の芽の出が悪かったりして収量がへってしまっただけで、でも今では有機農業の技術も確立し、収量は慣行農法ほど高くないが、安定している。農薬を使わなければ、害虫が発生しても、益虫もでてきてバランスがとれる。今では3ヘクタールの茶畑のうち1・8ヘクタールが有機認証を受けている。

おすすめ情報

マイボトルに お茶を入れて出かけよう

お茶屋さんが給茶サービス中

マイボトルにお茶をいれてお出かけしませんか。ペットボトルに比べると、ちょっとめんどくさいですが、優しいお茶の香りが幸せを感じさせてくれます。マイボトルは環境にも優しいんですよ。家からもってきたお茶を飲みきってしまったら、「給茶スポット」へ。「給茶スポット」では、マイボトルにいれたてのお茶を有料で給茶サービスしてくれます。現在、熊本では14軒のお茶屋さんが給茶サービスを実施中。



熊有所認定 有機茶生産者

■うきは市浮羽町
樋口勇八郎 新川製茶

■嬉野市塩田町
(株)川原茶業

■嬉野市嬉野町
(株)徳永製茶 (有)井手緑薫園
(有)中島美香園 北野農園
中山製茶舗 小野原製茶問屋

■菊池市原
渡邊明人

■宮崎市花ヶ島町
(株)宮崎経済連直販

■宮崎市中村東
(有)北条園

■球磨郡錦町
(有)丸藤 藤迫健一 林隆久

■球磨郡相良村川辺
山下幸俊

■熊本市南熊本
(株)安永商会

■山鹿市鹿北町
藤本製茶 藤本邦夫

■唐津市北波多成瀬
岡本正廣

■出水市上大川内

お茶工房・田中園 田中智彰

■上益城郡山都町
農業生産法人・長生園

田中卓穂 小崎孝一
上野一則 小崎菊美

■西臼杵郡五ヶ瀬町
(株)宮崎茶房

■西臼杵郡日之影町
一心園 甲斐鉄也
市花園町 (有)お茶の秋月園

■八女郡立花町
(株)宝パック

■武雄市橘町

(有)青木茶舗

■武雄市西川登町
(有)原製茶園

■天草郡苓北町
お茶の松下園



お茶って カッコいい

若い世代に、急須を持っていないという人が増えています。彼らにとって飲み物と言えばペットボトルか缶飲料。食後に飲むにも、珈琲や牛乳、ボトル水が主かもしれません。今50代以上に支えられているお茶のかっこよさと美味しさを若い人に伝えねば、10年後のお茶が心配です。

ロックDEお茶

カチカチの氷の上から熱い緑茶を注げば「ロックDE茶」。夏には最高！

美味しくいれる

お湯の温度、茶葉の量、時間が大切。お茶屋さんに聞いてみて。

お茶のマナー

最後のひとしずくまでいれきる。急須にお茶が残っていると、苦みが溶け出すよ。

自給率UP

ご飯を食べればお茶を飲みたくなる。お米とお茶のセットで自給率を上げるぞ！

ダイエットには茶

清涼飲料水は高カロリー。お茶はノンカロリー。

水出し茶

茶葉をいれてた水を冷蔵庫に入れておくだけの水出し茶。手軽で癖になる。

微量栄養素

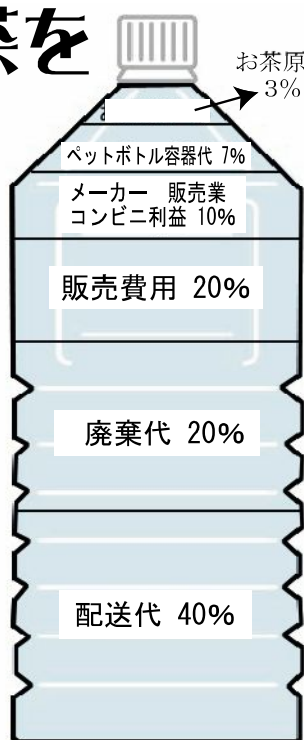
カテキン、テアニン、カフェイン、ビタミンC、ミネラルと微量栄養素がいっぱい

お茶にもTPO

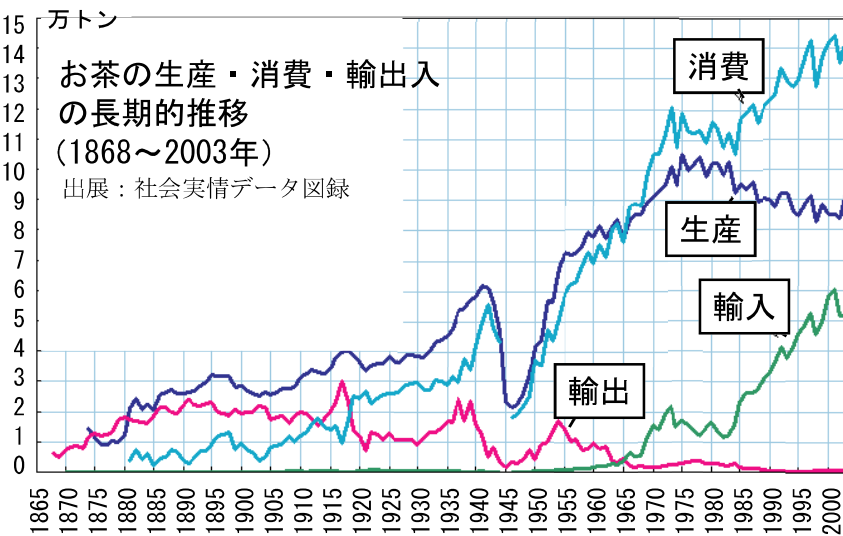
お店にはいろいろなお茶が。私は、釜煎り茶が好きです。

ペット茶を 考えて みよう

武田邦彦氏によれば、私達は5円相当のお茶を150円も支払って飲んでいるそうだ。これって、ホント？



お茶の生産と消費の推移

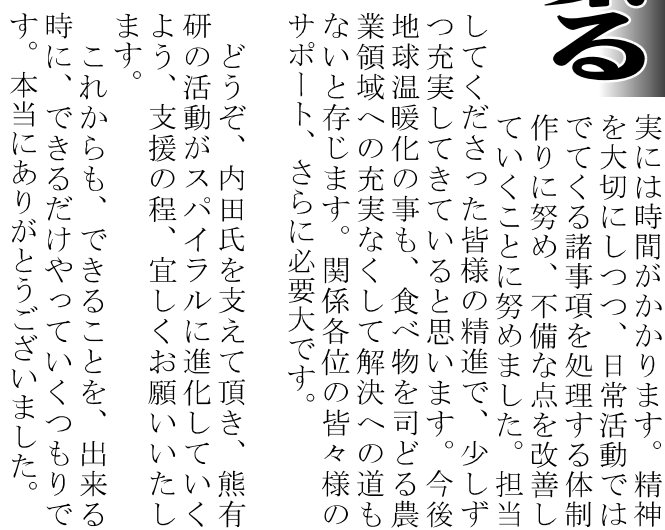


- ▼1965年を境に大きな変化がおこっています。
- ▼消費量は年々増加傾向ですが、1965年に急激に増えていきます。国内生産の伸びは鈍く、1975年を境に下り坂に。
- ▼輸出货量と輸入量は1965年で逆転し、以後輸入が急速に増加しています。
- ▼この消費量の伸びと国内生産の減少は、家庭でお茶をいれて飲む量が増えたのではなく、手軽で便利なペットボトルなどのお茶、それも安価な輸入茶を原料としたものの消費が増えてきたことを示していると考えられます。

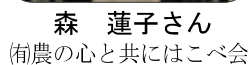
国産の表示でも 中国産かも

- ▼ペットボトルにはしばしば「国産」表示が。この表示は「製品を製造した場所」を表しています。例えば『ウーロン茶』の原料の茶葉の産地は中国福建省だとしても、日本国内でその茶葉を使ってお茶を抽出し、ペットボトルに詰めれば「国産」と表示ができるのです。
- ▼リーフ（茶葉）の場合は、原料産地名表示（国産、静岡県等産地名、輸入茶であれば原産国名）の表示が義務づけられていますのでその産地が分かりますが、ペットボトル等の場合、原料の茶葉が国産であるのか、輸入であるのか分かりません。
- ▼ボトル茶の原料茶についても産地表示の義務づけをすることで、国内産茶葉の需要も伸びるのではないのでしょうか？

根深くして、枝葉よく繁る



3/21日健軍文化ホールにて、理事会終了後、熊本の有機農業の礎を築き、発展に多大な貢献を頂きました荒木幹夫様、川添紘子様、田上知事子様、森蓮子様のお4名をお迎えして「感謝の集い」が開かれました。



皆様、熊本の有機農業の
いままでの歴史とともに
歩まれて、なぜ熊本で有機
農業運動が発生したか、
それらはどのような経緯
を辿ったか、今現在の有機
農業の現状に関して、
そして今後どのように有機
農業を発展させてほしい
かなど話されました。

結成当初、日本の有機農業の発展に寄与された一楽照雄氏が来熊された際には、「有機農業運動というのはただ単に」堆肥を使う運動ではなく、『世直し運動』である。有機農業運動は、消費者と生産者との連携が前提で、環境・健康を破壊しないための農業運動と、消費者の生命を守る運動が結合する運動であり、環境問題に取り組み、ボランティア活動をするなど世直し運動の一環である」といわれたこともあったそうです。

今回、欠席されました川添様に別の日にお話を聞く機会がありましたが、現在の形になるまで紆余曲折があり、いろいろとご苦労があられたそうです。荒木幹夫さん、川添紘子さん、田上知事子さん、森蓮子さん、今まで、熊本の有機農業をここまで引き上げて下さいましてありがとうございました。今後とも、ご指導のほどよろしくお願いいたします。（菊池・記）



ぽっこわば耕文舎のメンバー

青年部 阿蘇 ぽっこわば耕文舎研修 活動報告 — バイオダイナミック農法に触れて —

3月28日（土）、青年部メンバーなど総勢11名で阿蘇郡南阿蘇村でバイオダイナミック農法（以下BD農法）を行っている「ぽっこわば耕文舎」を訪ねました。BD農法とは「自然と人間との調和」をコンセプトに、自然の摂理にしたがい種を撒き、栽培し、収穫

することによって、植物が本来持つパワーを最大限発揮させようという有機農法であり、農薬を使用せず、農作業はすべて天体運行（星/月/太陽の活動）にあわせ行う農法です。「ぽっこわば農園」の創設者の一人である、假野祥子さんは、「BDは、農法でなく、自然の理を一番身近に教えてくれる存在です。」とお話され、また、「農業をする上で大事なことは自分の世界観を狭くせず、自分以外の人と多く触れ合うことが大事なんだよ。」と語られました。確かに特定の農法に固執してしまうと、自分の価値観を狭めてしまい、他の農法や、人達を受入れ難くしてしまいがちではないのでしょうか？農業をする上で大事な姿勢ではなからうかと思えます。



有研活動ブログURL: <http://www.kumayuken.org/blog/index.php>

有機農業推進ネットワーク告知

8月有機農業技術研究大会が開催されます

8月22日23日の両日、東海大学阿蘇校舎にて第4回有機農業技術総合研究大会が開催されます。現在、熊本有機農業推進ネットワークと九州有機農業推進法協議会とで、その内容討論が進められています。

※「有機農業技術会議」とは、有機農業技術の研究開発・体系化・普及を目的として2006年に設立された民間の技術者組織。

事務局：長野県 財団法人自然農法国際研究開発センター

※12月には第10回「有機農業学会」記念大会が鹿児島で開催されることも決定している。

有機農業白書のための情報を知らせて！

有機農業推進ネットワークで、有機農業白書作りが始まりました。第3者が認定した有機JAS認定の生産者のみではなく、農薬、化学肥料を1年以上使っていない自己申請の有機生産者、有機畜産の生産者、有機加工業者、有機農産物を扱う流通業者、レストラン、病院、保育園、お店、学校での取り組み、行政の動きなどの情報を集める予定です。今後、各地区の白書作成委員が情報を集めます。皆さんの周りの有機情報をお寄せください。

オーガニック食リスト

ゆうき しよく たんぽう
vol.7

by 広報部

●カフェテラス「野の花」

桜が本咲きに向かう3月末、カフェテラス「野の花」にて、まず初めに出版された鍋セット。鍋の代わりに使われている紙の器が燃えないのを不思議がっていると、次にお目見えしたのは「花見用ですか？」と見紛うばかりの品数の料理！器の演出も手伝って、野菜の存在感がこれまでとは一味違う構成となっていました。

たとえば、個々の持ち味を引き出す繊細な味付け。特に、メインの大皿に集った12品の一口おかずは、キクラゲの刺身や生麩の唐揚げなど、家でも外でもお目にかかれないも

のばかり。また、ナルト巻き風のニンジンカステラや、ゆばのお饅頭にもびっくり！素揚げの緑ナスを味わいつつ、「でも、この時期にナス？」と首を傾げていると、挨拶に来られたオーナーが「露地物だけに限定せず、ご近所のものも有機野菜と合わせて取り入れ、こだわりの調味料で仕上げています。」と解説。有機野菜とのフレックスな関係は、広範囲のお客さんに野菜の美味しさを伝え、いずれは国産有機野菜の裾野を広げることに貢献したいという志に根付いたものでした。

店情報：熊本市黒髪2丁目37-32 TEL096-342-0983

●有機惣菜やお弁当「キッチン太郎」

次に向かったのは、子飼商店街入口の「キッチン太郎」。中はラーメン屋さんのカウンターのような細長い造りです。ご飯は玄米と白米から、お好みの方を選べる弁当です。有機ブランド米で、どちらもボリュームたっぷり！です。おかずは、熊本の有機野菜をベースにした煮しめやお浸しで、ご飯と合わせると丁度いいくらいの腹具合になります。もちろん、「おかずもガッツリ食べたい！」方用に？唐揚げ・トンカツコースもあるのでご安心を。リーズナブルで種類も豊富なところが、学生さんにも嬉しいですね。

店情報：熊本市西子飼町10-16 TEL096-343-1777

■2月～5月活動報告■

- 2月14日(土) 第7回理事会
 21日(土) 佐藤弘氏講演会
 第9回通常総会
 24日(火) 有機JAS検査員研修会 (福岡)
 ～25日(水)
 3月 3日(火) 有機JAS講習会 (山都町)
 7日(土) 第2回判定委員会
 21日(土) 第1回理事会
 24日(火) 有機JAS講習会 (御船)
 4月12日(日) 臨時判定委員会
 19日(日) セミナー・第2回理事会
 21日(火) 資材適合性評価講習会(鹿児島)

□■今後の予定■□

- 5月27日(水) 有機食品等登録認定機関
 ～28日(木) 連絡会議 (神戸)
 30日(土) 第3回判定委員会
 6月23日(火) 有機JAS講習会 (植木)
 8月22日(土) 第4回有機農業技術
 ～23日(日) 総合研究大会

2月21日の総会で承認されました

2009年度理事名簿



- 理事長 内田敬介 (JA中央会・判定員)
 副理事長 橋本忠昌 (皇帝塩・審査員)
 副理事長 森田良光 (種苗部・審査員)
 事務局長 間 司 (百草園)
 理事 市来 真 (農の心と共にこべ会・食育担当)
 理事 緒方 健 (愛農会野菜部・フェスタ担当)
 理事 吉川直子 (消費者)
 理事 坂梨敏行 (審査員)
 理事 三上 晋 (判定委員)
 理事 渡辺眞明 ((有)有機の会)
 理事 藤本邦夫 (藤本製茶)
 理事 福山曉三 (自然食品店「天粧」)
 理事 荒毛正浩 (人吉有機農業推進協議会)
 理事 だい典子 (菊池農業・広報部)
 理事 北原智美 (野菜ソムリエ)
 理事 澤村輝彦 (肥後あゆみの会)
 理事 高岡慶蔵 (矢部有機農業研究会)
 監事 蓑田友宏 ((有)九州有機の里)
 監事 古荘洋子 (熊本いのちと土を考える会)



映画『未来の食卓』



給食を全て有機農産物に！

フランス南部のガール県バルジャック村、村全体の学校給食を有機食品に変えるという前例のない活動を追ったドキュメンタリー映画。

フランスは農薬使用が世界で第3位。健康被害を受けている人が多いことや、食品の添加物が子どもの健康被害に繋がっていることを訴えたこの映画の、全国上映が始まった。遠いフランスのことと思っはられない。農薬の使用量はアメリカが世界1位。2位はフランスだったが、昨年、日本がフランスを抜いて2位になったというのだから。



熊有研＊有機JAS認定事業者数

(2009年5月15日現在)

有機農産物の生産行程管理者(生産者)・・・161件
 有機加工食品の生産行程管理者(加工業者)・・・31件
 小分け業者・・・・・・・・・・22件

熊有研で認定している事業者数は、合計で214件。有機JASマークに「熊本県有機農業研究会」または「KOA A(大文字)」と記載してあるものは、熊有研の認定事業者の手がけた有機食品です。認定を取得するには、まず講習会を受講していただく必要があります。詳しくは、熊有研HPをご覧ください。どうか、お電話等でお問い合わせください。



熊有研ホームページご活用ください！

認証については、「有機認証」(メニューの左から2番目)をクリック！
 JAS講習会の申し込みや、申請書等のダウンロードもできます。認定手数料や認定事業者の一覧も、こちらで公開しています。

「熊本県有機農業研究会」で検索しても表示できます。
<http://www.kumayuken.org/>



▼じきに新茶の季節となりますが、今、日本のお茶農家さんはかなり苦労しているそうです。そこで今月号は、「お茶」について掘り下げる企画を組みました。なんでもペットボトルの『国産』お茶表示にはからくりがあるとか。自販機から取り出したその飲み物の、真の出身地とは？気になる方は「お茶通」まであと一歩です。もちろん私もその一人ですが、個人的には「飲む用」とどまらず粉末状にして販路を広げるのもなかなか、と思います。抹茶を初めとして、最近では石鹸や化粧品でも使われるようになり、注目を集めています。様々な分野で広がる健康志向が、有機お茶農家さんの境遇改革に帰結すると確信しています。今回の企画が、その流れの端緒となることを願っています。(松本恵美)

編集後記



このタイトルは、熊有研会報第1号から使われていたものを縮小したものです。

▼有機農業の世界をアピール！熊有研に今年1月から広報部の担当しております菊池と申します。この仕事は私にとっては非常に興味深く、おまけに文章を読み書きするのもとても好きですので、大変気に入っております。私の農業に従事する上でのテーマは「有機農業の世界を情報発信する」です。ので、今後どんどん積極的に「有機農業の世界」をブログや会報を通じて、アピールしていきたいと思っております。今後とも会報「ゆうき」のご愛読をお願い致します。(菊池泰宏)